

令和7年度

学校自己評価システムシート

(さいたま市立 木崎 中学校)

学校番号

203

【様式】

学 校 教 育 目 標	よく考えて行動する生徒 思いやりの意ある生徒 はつらつとした生徒
目 指 す 学 校 像	一人ひとりの生徒が誇りをもち、保護者・地域住民に信頼され、未来を拓く学校の創造
重 点 目 標	1 教育DXのもと学習者が主体的に学ぶ個別最適な学びの構築と授業改善の推進 2 積極的な生徒指導と教育相談の推進により安心安全な学校づくりと活力ある学校行事の推進 3 学校運営協議会による地域とともにある学校づくりと地域で活躍する生徒の育成 4 教育環境の整備による安全・安心で豊かに学べる学校づくり 5 同僚性を高め、協働して教育を推進する学校づくりのための教職員研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	(8割以上)
成	B	概ね達成	(6割以上)
度	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

		学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
		年 度 目 標					実施日令和8年2月19日		
		番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 な 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
学びの質の向上に 関する取組	心 の サ ポ ー ト に 関 する 取 組	1	【現状】 ○市の学習状況調査では、市平均をやや下回っている。 ○「タブレット端末を授業で毎日活用している」と回答した生徒は8割を超えている。 【課題】 ○主体的に学ぶ姿勢の育成と個別最適な学びの構築が課題である。 ○学習に対する興味・関心を広げ探究的に学ぶ生徒の育成を図る必要がある。 ○ICTの効果的な活用と、指導の工夫と改善をさらに追究する必要がある。	・主体的な学びを進めるための情報端末の活用、授業改善	① 文部科学省の「リーディングDXスクール事業」実践指定校の委嘱を受け、全教員でICTを効果的に活用した授業を行う。 ② 自分の学習課題を自分で決めて取り組む朝チャレンジを実施する。	① 学校評価における「きめ細かな学習支援を行っているか」の問いに対し、生徒の肯定的な回答が80％以上となったか。 ② 低位層を底上げし、市の学習状況調査で市平均を上回ったか。	① 「きめ細かな学習支援」の問いに対し、生徒の肯定的な回答は72.8％で目標値には届かなかった。 ② 市の学習状況調査で市平均と比較して1年+1.4、2年-15.0、3年+2.1で、学年によって差があった。	B	・個別最適な学びをさらに推進する必要がある。 ・低位層の底上げに重点を置くとともに教科の特性に応じて学習の個性化を推進する。
			・実生活に生きる学びのための各教科の動機づけと教科横断的な学習の工夫	① 生徒自身が自分で学習課題を設定し、他者との対話や協働により、自分の考えを広めたり深めたりする授業を実践する。 ② 「学びのポイント」の視点に基づく授業を実践する。	① 「学びの指標」の「主体的な学び」の平均値が3.3以上となったか。 ② 教科横断的な指導を充実させ、SDGsとESDを意識したSTEAMS TIMEを実施できたか。	① 「学びの指標」の「主体的な学び」の平均値は、3.32となり目標を達成した。 ② 教科横断的な指導を充実させ、SDGsとESDを意識したSTEAMS TIMEを実施できた。	A	・自分の学習課題を自分で決める主体的な学びを推進する。 ・他者との対話や協働により自分の考えを広めたり深めたりする授業を実施するとともに、教師が教える授業から学習者が主体的に学ぶ授業へ変革する。	
子どもの発達や サポートに関する取組	子 ど も の 発 達 や サ ポ ー ト に 関 する 取 組	2	【現状】 ○学校評価における「木崎中が好き」の問いに対して、生徒、保護者とも肯定的な回答は8割を超えている。「連絡・相談に適切に対応している」では、保護者の肯定的な回答は8割を超えている。 【課題】 ○登校しぶりや不定愁訴を訴える生徒が少なくないこととそれに対応する職員の経験不足が課題である。	・魅力があり生徒の活力を育成する学校行事の推進	① 生徒会や生徒委員会を活性化して生徒の活動の場を増やす。 ② 生徒の意見を取り入れながら、男女同一標準服へ移行する。	① 「木崎中が好き」の肯定的な回答が2％以上増えたか。 ② 生徒が積極的に学校生活を送り、行事等に取り組めたか。	① 「木崎中が好き」の肯定的な回答は81.3％で-1.7％だった。 ② 生徒が積極的に学校生活を送り、行事等に取り組むことができた。	A	・生徒主体に魅力ある学校づくりをさらに推進する。 ・生徒会や生徒委員会を中心に生徒主体の教育活動を充実させる。
			・きめ細かく対応する生徒指導、教育相談の充実、生徒の視線に合わせた教育相談の実施	① 全校三者面談の実施（年2回）。教育相談週間の実施（各学期1回）。生徒に関する連絡会の実施。（年2回）。 ② スクールダッシュボードの有効活用。Solaる一むを組織運用する。	① 学校評価における「連絡・相談に適切に対応している」の肯定的な回答が2％以上増えたか。 ② スクールダッシュボード、Solaる一むを有効活用し、不登校生徒を減少できたか。	① 「連絡・相談に適切に対応している」の肯定的な回答は、生徒は+1％だったが、保護者は-14.9％だった。 ② スクールダッシュボード、Solaる一むを有効活用したが、不登校生徒を減少させることはできなかった。	B	・不登校生徒が多いことが継続課題である。 ・スクールダッシュボードを有効活用し、生徒面談をさらに充実する。 ・Solaルームの運営を組織化し、サポート体制を充実させる。	
地域とともにある 学校づくりに関する取組	地 域 と と も に あ る 学 校 づ く り に 関 する 取 組	3	【現状】 ○学校運営協議会で本校生徒につけたい力、並びに地域に貢献する生徒の育成という方向が確認されている。 ○関係機関との生徒に係る連絡会は年2回開催することが定着している。 【課題】 ○地域との連携に関して、教員の働き方改革との両立が課題である。 ○コロナ禍以降に着任した教員への地域とともにある学校づくりの啓発が必要である。	・保護者、地域への学校公開	① 学校公開日年1回、授業参観年3回、学級懇談年3回実施する。 ② スクリレを活用する教員をさらに増やし、随時配信する。 ③ プログ等、学校ホームページを充実させる。	① 学校評価における「学校や生徒の活動の様子が保護者に伝わっているか」の肯定的な回答が9割を超えているか。 ② 学校ホームページが毎週更新されたか。	① 「学校や生徒の活動の様子が保護者に伝わっているか」の肯定的な回答は94.1％で9割を超えることができた。 ② 学校ホームページは毎週更新された。	A	・スクリレによる配信とホームページによる情報提供をさらに充実させる。 ・スクリレを活用する教員をさらに増やし、学校や生徒の活動の様子を随時発信する。
			・木崎中生が取り組む地域活動と、地域のボランティア活動への参加	① 学校運営協議会を年間3回実施し、地域で活躍する生徒についての熟議を行う。 ② 避難所運営訓練や地域活動に生徒を積極的に参加させる。	① 生徒が避難所運営訓練や地域活動にボランティアで参加するなど、地域との連携が図れたか。 ② 参加生徒が10％以上増えたか。	① 生徒が避難所運営訓練に10名、地域活動に116名ボランティアで参加し、地域との連携が図れた。 ② 参加生徒が70％増えた。	A	・避難所運営訓練や地域活動への参加生徒をさらに増やし、地域との連携を強化する。 ・生徒を地域に預け、地域の教育力を活用する。	
教育環境の整備に 関する取組	教 育 環 境 の 整 備 に 関 する 取 組	4	【現状】 ○築50年を迎えた校舎や施設について、老朽化による破損・雨漏り等が多い。 ○ICT教育環境について、普通教室は整備されているが、タブレットの修繕に時間がかかっている。 【課題】 ○毎月の安全点検の確実な実施と生徒への注意喚起、生徒自身の安全への意識を高めることに課題がある。	・計画的で効果的な予算運用による教育環境の整備	① 施設管理、修繕に関する予算執行管理を徹底する。 ② ICT機器等管理担当を組織化し、タブレットの修繕申請を迅速に行う。	① 施設管理、修繕に関する予算執行管理を徹底できたか。 ② タブレットの修繕申請を迅速に行い、未所持生徒の減少、期間の短縮を実現できたか。	① 施設管理、修繕に関する予算執行管理を徹底できた。 ② タブレットの修繕申請を迅速に行い、未所持生徒の減少、期間の短縮を実現できた。	A	・樹木の剪定を計画的に進めたい。 ・タブレットの入替に伴い、未所持生徒が大幅に減少することが期待される。
			・点検報告を基にした確実な修繕実施	① 教職員による毎月の安全点検を確実に実施し、迅速に修繕する。 ② 安全に関する集会を設けたり、生徒会活動を促進したりして、生徒自身の安全への意識を高める。	① 安全点検で報告された箇所について各学期末までに修繕できたか。 ② 生徒自身の安全への意識を高めることができたか。	① 安全点検で報告された箇所について各学期末までに修繕できた。 ② 生徒自身の安全への意識を高めることができた。	A	・毎月の安全点検を徹底させることが課題である。 ・生徒自身の安全への意識をさらに高めたい。	
教職員のキャリア形成に 関する取組	教 職 員 の カ リ ア 形 成 に 関 する 取 組	5	【現状】 ○教育DXの推進とICTの活用において研究推進委員が率先して情報提供をしている。 ○研修担当が計画的に事故防止や資質向上に関する研修を行っている。 【課題】 ○教職員の経験値の差があり、資質向上の研修が絶えず必要である。 ○教科の特性や経験年数によってICTの活用状況に差がみられる。	・教職員のICT活用能力の向上による教育DXの実現	① リーディングDXスクール事業を実践する。 ② 校内研修を計画的に実施する。 ③ 研究発表会、ICT教育先進校等への視察・派遣を定期的に行う。	① 「学びの指標」の「ICTの効果的な活用」の平均値が3.3以上となったか。 ② リーディングDXスクールとしてICTを効果的に活用した授業を学校内外へ公開できたか。	① 「学びの指標」の「ICTの効果的な活用」の平均値は前年度より+0.07で3.11となったが、目標値には届かなかった。 ② 7月にリーディングDXスクール指定校公開授業・公開研修会、学校DX推進研修兼SSSP管理職研修会を約200名の参加者を集めて開催し成果を発表した。	A	・タブレットの活用は、教科によって差があるので、活用する教科を増やすことが課題である。 ・ICT等の思考ツールを授業で活用するための校内研修を毎月行う。 ・「学びの指標」のICTの効果的な活用を目標値に設定して授業改善を進める。
			・働きがいのある学校づくり	① デジタル採点システムを普及する等、校務を徹底的に効率化する。 ② 報告・連絡・相談・見届け体制の強化とチームワークのよい職場づくりにより同僚性を向上させる。	① デジタル採点システムの活用による成績処理等、校務を効率化できたか。 ② 組織的対応を徹底し、同僚性を向上させることができたか。	① デジタル採点システムの活用により成績処理等、校務を効率化できた。 ② 組織的対応を徹底し、同僚性を向上させることができた。	A	・生成AIの活用により、業務改善をさらに促進する。 ・チームワークのよい職場づくりを継続し、同僚性をさらに向上させる。	
学校運営協議会からの意見・要望・評価等									
・中学校は教科担任制なので、カリキュラムマネジメントが難しいと思うが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱に教科横断的な学習を行い、よく連携が図れているように思う。 ・教科の壁を壊して授業研究を行い、総合的な学習の時間等を活用して探究的に学ぶ生徒の育成を引き続き行ってもらいたい。 ・生徒会や中央委員会を中心に生徒主体の教育活動を引き続き充実させてほしい。 ・不登校生徒はもちろん、その保護者も辛い思いを抱えていると思うので、PTAとしてもできることをしていきたい。									

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心身のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組